

○公園の評価について

4つの理念	評価の種類	主な項目	自己評価	次年度の方向性
景観	定量的評価	定点観測	<ul style="list-style-type: none"> ・定点観測を41地点で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・定点観測を継続して、実施していく。 ・長期的視野で評価していく。
	定性的評価	景観づくりの工法・手法など	<ul style="list-style-type: none"> ・向井池周回園路などの園路広場づくり、竹林の育成管理を実施 ・棚田跡地を中心としたもち米づくり、野菜づくり、茶畑づくりなどの実施 ・スイセンの育成管理と景観づくり ・手作りのかまどやピザ釜、農小屋の設置 ・府工事等における景観に配慮した色彩の採用 <p style="text-align: right;">つくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般向けに、園内散策、収穫・田植え、茶摘みなど体験プログラムを開催。 ⇒未開設区域である向井池周回園路を安全管理のうえ、ガイド ・郷の棚田プログラムとして、2件実施。 ・秋の郷遊びイベントにおけるピザの提供 <p style="text-align: right;">プログラム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、向井池周回園路における階段設置や安全対策、広場整備の実施により、郷の景観を再生するとともに、郷の棚田における花壇づくりなど新たな景観づくりを進める。 ・湿地においては、竹など発生材を利用し、試行として、園路を整備する。
環境	定量的評価	調査	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物調査の実施(野鳥、昆虫、山菜、キノコなど) ・位置図、樹名札等の作成 ・昆虫調査を実施し、一般向けに観察会を開催 ・ビオトープ池をつくり、一般向けに池の調査を実施 ・ササユリの保護活動を実施し、一般向けに鑑賞会を開催 ・野鳥・山菜・キノコ調査を実施、一般向けに観察会を開催 ・府大のハナバチの研究の連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種調査、各種観察会を継続して、実施していく。 ・長期的視野で評価していく。
	定性的評価	環境に配慮した手法、工法など	<ul style="list-style-type: none"> ・向井池周回園路などの園路広場づくり、竹林の育成管理を実施 ・棚田跡地を中心としたもち米づくり、野菜づくり、茶畑づくりなどの実施 ・スイセンの育成管理と景観づくり ・間伐材や落ち葉などの園内施設や工作等へのリユース ⇒間伐した竹を用いて竹馬、竹ぽっくり、竹とんぼを来園者向けに設置 ・ビートルシップによる生息空間づくり <p style="text-align: right;">つくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般向けに、園内散策、収穫・田植え、茶摘みなど体験プログラムを開催。 ⇒未開設区域である向井池周回園路を安全管理のうえ、ガイド ・開園1周年記念イベントで決定した愛称を間伐材を用いて製作し、パークセンターに展示 ・郷の棚田プログラムとして、2件実施 ・「イオン日根野店チアーズクラブ」との協働による、環境学習の実施 ・太陽光発電による省エネと啓発 ・巣箱の設置とパークセンター内での営巣状況の展示 ・パークセンター内での、シイタケ原木や竹の作品展示 <p style="text-align: right;">プログラム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、竹林管理や間伐材のリユースなど、環境に配慮した取り組みを実施するとともに、環境学習や農体験、パークセンター内の展示などの環境に関する啓発プログラムを進める。

○公園の評価について

4つの理念	評価の種類	主な項目	自己評価	次年度の方向性
シナリオ型	定量的評価	来園者数、パーククラブ参加者数など	<ul style="list-style-type: none"> ・パークレンジャー養成講座の短期講座、本講座(全6回)を開催 ⇒11名がパーククラブに加入 ・来園者数は年間約3万人 ・駐車台数は月300台程度 ・パーククラブの全活動日数が約170日 ・パーククラブののべ活動人員約2,000人 	<ul style="list-style-type: none"> ・パーククラブの力がこの公園の推進力となるとともに、「つくり続ける公園」を実現する大きな原動力であるため、養成講座を引き続き開催する。 ・パーククラブの男女比が是正されておらず、プログラム内容の多様化を目的とした、女性メンバー増員のための募集方法及び講習内容の検討を進める ・来園者の拡大を図る段階であることから、引き続き駐車料金は無料とし、今後、来園者の動向や収益性を踏まえ、駐車台数の増設や有料化について随時検討していく。
	定性的評価	持込み型プログラムの状況など	<ul style="list-style-type: none"> ・えんづくりプログラムの上半期は、ものづくりや展示など5団体がプログラムを実施、下半期は、新規5団体を含め9団体が活動中 ⇒「わかりやすく、楽しかった」など好評 ・郷の棚田プログラムについては2件が活動中 ⇒「きれいで、春が楽しみ」など好評 ・神奈川県立藤沢清流高校の修学旅行や近隣小学校の社会見学の受け入れ ・第35回「緑の都市賞」内閣総理大臣賞の受賞 ・平成26年度「土木学会関西支部技術賞」部門賞の受賞 ・府職員を対象とした研修会を実施 ・泉南支援学校(高校生)の職場体験の受け入れ(1週間) ・企業の森活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、持込み型プログラムの公募を実施し、審議会で審査を行う。また、参加者の拡大に向け、広報期間など実施者との調整を進める。 ・パーククラブの体験プログラムへの参加等、修学旅行や研修の場として利用してもらうよう、PRを行う。
地域活性化	定量的評価	団体利用数、HPアクセス数など	<ul style="list-style-type: none"> ・各市町の校長会での公園PRの実施 ・国内外からの行政期間やデザイン関係者等の視察受け入れ ・団体利用の受け入れ(年間で約70件) ⇒福祉施設などからは「トイレがきれいで、使いやすい」「緑が多くて、安心して利用できる」 ・当公園を知るきっかけ ⇒市広報:約30%、チラシやポスター:約20%、テレビや新聞:約15%、知人や友人:約15%、関係者:約10%、WEB:約10% ・広報誌「ニュースせんなん」や「府政だより」、公園フリーペーパー「オアフ」への掲載 ・関西ウォーカーの「秋の紅葉特集」での公園紹介 ・産経新聞へOCTとの連携に関する内容の掲載 ・HPアクセス数は約30,000件、Facebookでの「いいね」の数は約700件 ・NHK「さきどり」「ウイークエンド関西」やケーブルテレビでの公園紹介やイベント紹介 ・地元上之郷自治会等へのイベントチラシの配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、校長会でのPRや市広報、府政だよりなどへの掲載、コトまっぶの配布などを実施し、府からの積極的な情報発信を行う。また、FacebookなどWebでの発信と合わせ、口コミや人的ネットワークを活かした広報を進めていく。
	定性的評価	企業の森活動の状況など	<ul style="list-style-type: none"> ・「企業の森活動」については、大輪会企業を対象に現地体験会をスタート ⇒竹切り体験の時間を増やしてほしいとの意見あり ・プログラム参加者の居住地について、泉佐野市及びその近隣をあわせると8割以上は地元の住民の参加となっている。 ・泉佐野市のコミュニティバスが10月から、観光周遊バスが12月から園内乗り入れを開始 ・泉佐野市広報へイベント告知の掲載 ・泉佐野市農産加工部より、開園1周年記念イベントでの郷土料理の提供 ・泉佐野市観光ボランティア協会のバスツアーやウォーキングツアーの受け入れ連携 ・泉佐野市まちの活性課の女性企業家セミナーとの連携 ・泉佐野市保健センターとのノルディックウォーキングの連携 ・泉南地域の生業と民俗研究会とのパーククラブ活動及びイベント連携 ・佐野工科高校とのイベント連携 ・地元陶芸家との連携で丘陵の土での粘土づくり ・大阪工業技術専門学校(OCT)と連携し、学生による卒業制作の寄附 ・来園者情報の活用(昆虫・野鳥) 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、「企業の森活動」において、現地体験会を開催し、企業が楽しみながら公園づくりに参画する仕組みを検討する。 ・各バスの到着時刻を考慮し、イベントや各プログラムの開催時刻を調整する。 ・地元で活動している各団体と、引き続きイベントや各プログラムで連携を図る。 ・プログラム参加者には必ずファンになってもらい、継続的に関わってもらうような囲い込みの仕組みを検討する(次回イベントの紹介など)。